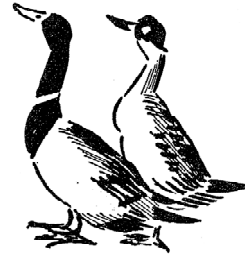


農業

平成28年12月号
会誌 No. 1619



目次

総裁 秋篠宮殿下……………染 英昭 3
新潟県の農事功績者表彰受章農家をご視察

巻頭言

遺伝資源を利用した農学研究と名古屋議定書……………大杉 立 8

論壇

新しい農研機構……………井邊 時雄 9

表彰農家訪問

地域活性化を目指した若狭牛ブランド力向上への挑戦……………横内 圀生 11
－福井県坂井市に齋藤俊雄さんを訪ねて－

寄稿

マイクロバブル・ナノバブルの農業への活用・その可能性……………玉置 雅彦 19
池浦 博美

農業・農村の現場から

6次産業化による島おこし……………鶴山 浄真 30
－高齢化率日本一だったミカンの島をジャムづくりで活性化－

世界の農業は今

フィンランドにおける農村振興政策……………浅井 真康 36
- LEADER を中心として -

私の経営と志

後継者への道……………黒田 慎 42

統計情報

平成28年産4麦の収穫量…………… 44

農政情報

…………… 45
平成28年度農業技術功労者表彰…………… 45
大日本農会だより…………… 46
編集部から…………… 46
「農業」年間総目次…………… 47

表紙写真説明

「有田みかん」の選果（和歌山県有田郡有田川町）

和歌山県の中央部に位置する有田地域は、有田市、湯浅町、広川町、有田川町の1市3町からなり、主に温州ミカンを始めとするカンキツ栽培が盛んで、その多くが急傾斜の石垣階段畑で栽培され、古くからミカンとともに歩んできた地域である。

10月末までは「ゆら早生」などの極早生温州が出荷され、山の斜面全体がみかん色に染まる11月からは早生温州の収穫が始まり、その後中生温州、晩生温州と、農家は忙しい日が続く。

表紙写真はJA ありだ AQ 中央選果場の選果風景である。同選果場では、平成28年に既存の選果システムの更新や腐敗果感知センサーを導入し、作業の省力化や選果能力の向上を図った。農家から出荷されたミカンは、光センサー、カラーグレーダー等により糖度、酸度、外観、腐敗果などの選果基準で選別し、「有田みかん」ブランドとして、関西、関東、北海道などの市場へ厳選出荷されている。

(和歌山県有田振興局農林水産振興部農業水産振興課 大橋真人)